



まつやま 広報

主な内容 No.1272

- 特集 国民健康保険 ……4・5面
- 学生による政策論文募集 ……2面
- 市民ガイド ……7~11面
- 道後温泉本館周辺が優秀賞に ……12面

救急病院当番表(7月)を11面に掲載しています。

発行：松山市役所／編集：総合政策部広報課／毎月1日・15日 ☎ 948-6705 FAX 934-2578 HP <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>
一人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山

子育て世代の声を市政に 子育てミーティング開催

子育てしやすいまちに

(清水町三丁目) 大原 徳美さん 拓翔くん

児童館を週2回利用しています。歩けない子どもでも安心して遊べる上、イベントなどの情報を知ることができ便利です。ミーティングでは、できるだけやっていきたい、という市の前向きな姿勢を感じました。松山が子育てしやすいまちになることを期待しています。



子どもたちが自由に動き回るなど、和気あいあいとした雰囲気の中、意見交換

子育てで困っていること、行政への提案、要望などを意見交換し、よつと5月27日、子育て真っ最中の親子15組が集まり、野志市長を囲んでの子育てミーティングが中央児童センターで開催されました。

児童館で子育て交流を

児童館は子どもたちが伸び伸びと過ごせる場であり、ベビーマッサージなどさまざまな講座が開催され、子育て世代の交流・支援の場にもなっています。市内には利用者数が全国で10位を誇る南部児童センターなど8カ所の児童館・児童センターがあります。

南部児童センターで来館50万人目となった吉田恵璃さん、桃恵ちゃん、伊代ちゃん(古川北四丁目)

ミーティングは足育講座の後に行われ、「1歳未満の一時保育を利用するのに時間がかかった」「子育て情報を一元化した冊子やホームページを作してほしい」「車で行く公園を増やしてほしい」など、参加者から子育てに関するさまざまな意見が出されました。野志市長は「出産や子育ての環境が整わない都市に発展性はないと思う。困ったことは遠慮なく市に相談してほしい」と述べるなど、子育てサポートを充実させる考えを示しました。



参加した15組の親子と野志市長

814へ お問い合わせは、子育て支援課 ☎ 948 6411・FAX 934 1

松山市長 野志 克仁

子育て家庭を応援！

子どもの健やかな育ちは、全ての大人にとって願いであり、喜びです。私は「誇れる子育てで笑顔に」を公約とし、その実現に向け、子どもと子育て家庭を応援する、さまざまな取り組みを進めています。

4月に子ども・子育て担当部長を配置し、子ども・子育て3法

子どもが安心して育つための環境を整えること、子育て世代の交流・支援の場を充実させること、子育て世代の就業支援など、さまざまな取り組みを進めています。

また私は、子育て施策のさらなる充実を図るためには、皆さまのご意見を耳を傾けること、子育てを巡る制度変更や子育て支援策の充実・強化などに対応できるようにしたほか、このたびは産学・官が「子育て」をテーマに連携協定を締結しました。

その他にも市長就任以来、認可保育所や事業所内保育施設の定員拡大などを図り、認可保育所待機児童ゼロを達成しています。

産学官で 子育て応援連携協定調印

本市は、出版社(株えひめリビング新聞社、株エスピー・シー)および大学(山東雲女子大学・短期大学、聖カタリナ大学・短期大学部)の4団体からの要望を受け、子育てサポートをテーマとした協定を5月12日、締結しました。

「まつやま笑顔の子育て応援連携協定」の下、5団体で子育て応援会議を立ち上げ、出版社ならではのネットワークや情報発信力を活用し、子育てに特化したフリーペーパー発行やWEBサイトの開設、また福祉・保育系大学との連携による公開講座などを開催する予定です。野志市長は「それぞれの強みを生かし、子育てにやさしいまちまつやまを築いていきたい」と意気込みを語りました。

各団体代表者と野志市長